

流れてきた縄文人のアクセサリー

厚田区から小樽市銭函までの海岸ではコハク（琥珀）が漂着します。これは松などの樹脂の化石といわれ、半透明で黄や赤などの色があります。非常に軽く、不思議な感じがする宝石です。そのせいか、北海道では2万年も前からアクセサリーとして使われ、千歳市の遺跡で出土しています。

石狩市内の海岸では石炭も漂着することから、漂着コハクは石狩川流域の石炭層（約5600万年前～約3390万年前）に含まれていると推定されます。

私は毎年、雪解け時期から初夏にかけて、コハクを探して石狩浜を歩きます。上流で雨が降った後は特に期待ができます。

昨夏、石狩川河口で細長いコハクを拾いました（写真①）。長さ3cm、幅1cmほどで、漂着コハクとしては大きめでしたが、くすんだ色であまり美しくありません。

ところが、帰ってよく見たら小さな穴があいています（写真②）。穴は直径4mmほどで、ドリルのような道具を使い、明らかに人があけたものでした（写真③）。

市内の縄文時代終末（約2千年前の遺跡からも同じようなコハクアクセサリー（写真④）が出土しているので、拾ったコハ

写真②



写真③



写真④



クも縄文人のものである可能性が高いと思います。きつと石狩川沿いの遺跡の地層が削られ、流れてきたのでしょうか。

（石橋孝夫）



石狩市学芸協力員
石橋孝夫 Takao Ishibashi

専門分野は考古学と石狩史。石狩紅葉山49号遺跡の発掘を手がけたほか、縄文時代から江戸時代に至るサケ漁の方法や文化について研究する。

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館